

第3回県民応援 NPO プロジェクト 公開プレゼンテーション

日時：2024年3月23日（土）13：30～16：00

【審査委員長講評】 岩崎 恭典氏（四日市大学学長）

今日の県民応援 NPO プロジェクトの5つの申請団体のみなさんのプレゼンテーションは社会課題を的確に捉えられていて、とても熱い思いが伝わってきた。5団体の支援をさせていただけるのであればそれに越したことはない。しかし、そうはならないので、選ばないといけない。

申請いただいた書類をベースの今回のプレゼンテーションをお聞きして、重要になるのは、審査員に皆さんの「やりたい」という気持ちが伝わったか、説得力があったかということである。我々はその視点から判断をした。

- ・県民応援 NPO プロジェクトは、「子どもの困難を解決する」ことから始まっている部分がある。その意味では、フリースクール三重シューレと太陽の家については、非常に課題が把握され、その課題を早くどう解決していくかという点が明確であった。
- ・「NPO 法人太陽の家」の場合は、県内に広げるために研修をしていくという、人に育成に力点を置いていることに高い評価があった。
- ・「認定 NPO 法人フリースクール三重シューレ」については、伝統のある活動実績のある団体であり、その実績からフリースクール事業を当事者目線で捉えなおそうという非常にチャレンジングな事業をされようとしている。その点の評価がポイントであった。
すこし前の話だが、2011年から8年間、県の教育委員会の教育委員をしていた。その時に、フリースクール三重シューレがフリースクールをされ始めようとしていた時だと思うが、ある意味けんもほろろの状態であった。子どもは学校に来て教育を受けることが当然だというのが、2011年頃の県教委の考え方であった。
それからすると、様変わりである。国も県も不登校の問題にどのように対応していくか、学校だけが教育の場ではないと、大きく舵をきった。
その動きのなかで、フリースクール三重シューレがこれまでの活動の実績を踏まえながら、では当事者の声を聴いてみよう、当事者がどう思っているかを聞いてみよう、ということにチャレンジすることは必要な話である。太陽の家のアウトリーチもすごく重要なことである。
- ・この2プロジェクトについては審査員の間でも高い評価であった。
- ・国も県も行政がすごく変わりつつあるが、現場はかなりしんどい部分がある。現場の先生の理解が必要であるし、特に県や市町の教育委員会に対しての働きかけが必要に思う。活動を通しての政策提言のようなことを積極的に県の教育委員会にされることを期待する。活動実績を踏まえてほしい。
- ・あと1団体は「認定 NPO 法人ときわ会藍ちゃんの家」にお願いしたいということであった。藍ちゃんの家プロジェクトではすでに試作品ができている。であれば応援する必要はないのではないかという意見もあったが、防災対応の食品として、レトルトや冷凍といったことではなく、アップサイクルできるように製品化していこうというのは、目標が10倍に設定しているところが気にはなっているが、社会的意義があるという判断である。

総括をすると、「子ども」という視点、「チャレンジ」という視点で判断した。ある程度目途がついているチャレンジということに考えてしまったところはあるが、「チャレンジ」という視点で判断をした。

認定 NPO 法人フリースクール三重シューレ、認定 NPO 法人ときわ会藍ちゃんの家、NPO 法人太陽の家の3プロジェクトを今年は選ばせていただいた。